

パートナー活動に係る担当者及びグループリーダー等について

4月1日付けの茨城県の定期人事異動により、センターでパートナー活動に携わってきた中原主事が企画部事業推進課に、大澤主事が企業局総務課に転出されました。また、同日付で松本主任が土浦県税事務所から、高橋主任が総務部職員課から、新規採用職員として中根主事の3名が環境活動推進課に配属になりました。

これに伴い、平成22年度のパートナー活動に係る霞ヶ浦環境科学センターの担当者は下表のとおりになりました。また、各グループで下表記載のとおりグループリーダーが選任されております。よろしくお願いいたします。

平成22年度パートナー活動に係る担当者及び各グループリーダー等一覧

霞ヶ浦環境科学センター		パートナー	
業務区分	担当職員	リーダー	副リーダー
パートナー活動全体	深澤主査 ※センターホームページ更新は内田主事がサポート		
パートナー企画部会	松本主任, 軽部主査, 高橋主任	会長: 尾形 孝彦	副会長: 栗原 知彦
パートナー情報誌『香澄』編集部会	高橋主任, 松本主任, 中根主事	編集長: 安川 敏行	紙面編集: 稲葉 寛
研修グループ活動	稲田主査, 宮本係長	尾形 孝彦	安川 敏行 浅野 明宏
イベント・記録グループ活動	松本主任, 内田主事	栗原 知彦	目次 隆 山中 章
生き物グループ(魚類)活動	中村囑託, 小森主任	腰塚 昭温	大須賀 誠一
生き物グループ(植物)活動	福田囑託, 軽部主査, 中根主事	有吉 潔	二階堂 春恵
図書グループ活動	高橋主任, 菱沼囑託, 中根主事	山中 章	平江 俊之 細谷 浩 松永 嘉久
その他(各施設の鍵の使用, ごみの処分等)	総務課・環境活動推進課職員		

新任センター職員の自己紹介



松本忠士

センターに参りました松本です。環境関係の業務は初めてですが、私自身は霞ヶ浦とは些か縁がございます。母親の実家が土浦市の大岩田でして、子供の頃は霞ヶ浦にはよく遊びに来ておりました。また社会人になってから友人と2回ほど徒歩での霞ヶ浦1周に挑戦したことがあります。1回目は準備不足のため途中で断念してしまいましたが、準備を整えて挑んだ2回目は霞ヶ浦1周を達成することができました。その時に見た霞ヶ浦は風光明媚で自然が豊かな姿であり、この素晴らしい風景を大事にしなければいけないと感じたのを憶えています。パートナーの皆様の活動の一助になれるよう頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



高橋 慎

センター環境活動推進課の高橋と申します。パートナー活動においては図書グループ及び「香澄」編集部会の担当となりました。この度センターへ異動となり、まず新たな環境に慣れるということが喫緊の課題となっております。私と霞ヶ浦の関わりですが、小さい頃は(ずいぶん昔のことになります。)自転車に乗って霞ヶ浦や桜川に行き釣りをしたりと、非常に親しみのある存在でしたが、あまり釣りにも行かなくなり、次第に霞ヶ浦との関わりが希薄となっていたところ、このたびの異動により再び霞ヶ浦と接する機会を得たところです。微力ながらパートナーの皆様の活動のお手伝いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。



中根 尚美

こんにちは。新規採用職員の中根と申します。趣味は音楽鑑賞・フルート演奏です。出島村生まれの千代田町育ちで、霞ヶ浦は身近な存在です。子どもの頃、霞ヶ浦で採れる生のシラウオが大好きで父がよく買ってきてくれました。しかし、いつからか霞ヶ浦の汚れがひどいからと食卓に並ぶことはなくなってしまい、“霞ヶ浦が本当に汚れてしまっているんだな…”ということを実感しました。少しでも昔のような霞ヶ浦を取り戻せるように、一生懸命パートナーの皆様の活動のお手伝いをさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

企画部会

平成 22 年度活動概要

平成 22 年度企画部会活動計画について 5 月 7 日にプロジェクトの確認を行いました。

活動情報の発信ツールとして

センターフェスティバルにおけるパートナー活動ブースの出展（5 月， 8 月）

パートナー情報誌「香澄」の発行（1 回／2 ヶ月）

パートナー， サポーターのホームページ（HP）の設置

研修・交流のレベルアップに

パートナー霞ヶ浦講座

パートナー全体研修・交流会等， を企画いたしました。

③のHPはセンターHPの「パートナー・サポーターコーナー」に既に設置公開されています。「各グループの活動紹介」欄でパートナーの日々の活動を紹介できると楽しいですね。更新方法や運用・管理等につきましては、環境活動推進課と協議して詳細を詰めてまいります。パートナー活動をPRできる良いツールだと思いますので、有効に活用したいものです。更新方法は更新希望資料をセンター環境活動推進課へ提出し、決裁後に入力処理する方法で検討中입니다。

の「パートナー霞ヶ浦講座」はセンター利用者へより良いサービスを提供できるようにするためのパートナーを対象とした集中講座です。5 月 22 日開講， 来年 2 月 5 日まで 7 回開催されます。皆さんの参加をお待ちします。

7 講座すべてに参加された方には、企画部会から特製の修了証書をお贈りいたします。

（企画部会長：尾形）

魚グループ

平成 22 年度活動計画

霞ヶ浦にもいろいろな魚が住んでいることを多くの人に知ってもらい、霞ヶ浦に関心を持つ人を増やすこと、次にその人たちに魚が住んでいる環境を考えてもらうことで、霞ヶ浦の水質浄化活動に目を向ける人を増やすのが、このグループの活動目標である。今年も今までと同様に、定点調査と霞ヶ浦自然観察会およびセンターのイベントの補助を行っていく。

定点調査は月に 1 回、原則として第 2 土曜日に行い、今年からは魚と水質の調査場所を完全に同じにして、投網と水質は同時に移動することで協力できる体制にした。また水質調査は誰もができるようにマニュアルを作成し、できれば講習会も行う予定である。自然観察会は年に 9 回予定し、桜川での観察会は季節の良い 6 月に実施する予定である。その他、飼育水槽のメンテナンスの手伝いは 2 週間に 1 回とした。

今年のグループの新たな活動としては、従来センターイベント時に投網教室だけを行ってきたが、来館者に霞ヶ浦の魚のことをもっと知ってもらうため、投網教室に定点調査の結果を掲示し、また魚の名前当てクイズを試みる予定である。

（魚グループリーダー：越塚）

研修グループ

平成 22 年度活動概要

平成 22 年度研修グループ活動について、顔合わせも兼ねて 4 月 9 日に打合せを行いました。新年度で特筆するパートナー業務として、従来の研修室での補助に加え霞ヶ浦フィールドや学校に出向いての出前講座の補助が新規に加わりました。

出前講座として

霞ヶ浦 E・S キッズクラブ（霞ヶ浦流域小学校 5， 6 年生児童を募集し， 12 回／年の体験型環境学習， 湖岸でのフィールド学習を通して霞ヶ浦の水質と生物との関連について体系的・統計的に水環境を学ぶ）

流域小学校と連携しての体験型学習

学校からの要請を受けての体験型学習

の 3 つの環境学習出前講座補助を行います。

また、従来の研修室での環境学習で新しくデジタルパケットが導入されるため、4 月 23 日に実験器具の基本操作の講習会を開催しました。

さらに平成 22 年度研修グループ自主活動テーマを設定し、グループメンバー有志で企画立案、実施を目指します。進捗状況は年 3 回のグループ定例会で報告します。

（研修グループリーダー：尾形）

図書グループ

平成 22 年度活動計画

図書グループのメンバーは総勢 22 名(昨年より 1 名減)で、昨年と同じ火曜日と金曜日の 2 回、交流サロンが利用可能な日に活動を行います。

活動内容は従来の継続テーマで

文献資料室の蔵書の紹介(全員)

四半期ごとにテーマを設定して蔵書を紹介していきます。(これまでは、各自が自由にテーマを選んで蔵書紹介をしていました。)

アクリルタワシ作成指導への協力(全員)

「テーマ別新聞切抜き綴り」の作成(希望者 5 名)

読み聞かせ(希望者 7 名)

月 1 回の頻度で絵本や紙芝居を利用した読み聞かせを行います。昨年度、図書グループで作成した環境紙芝居「ぼくとナマズの湖底探検」は、5 月 5 日のこども環境フェスティバルでお披露目になりました。

新しい活動テーマとして考えている「霞ヶ浦の Q & A」の作成については、現在の仕事量や活動状況を考え、6 月に今後の取り進めについて全員で議論していきます。(図書グループリーダー：山中)

植物グループ

平成 22 年度パートナー活動の計画

植物グループでのパートナー活動は、年間 10 回(4 月～翌年 1 月までの各月原則第 2 水曜日)行われるセンター主催の「野外講座」における**運営補助活動**と、各月原則第 4 水曜日に“パートナー自主活動”として行うセンター南湖岸(国交省霞ヶ浦河川事務所が実施している「自然再生事業」の対象区間)での「**植物定点観察活動**」の 2 つの環境学習推進活動です。

野外講座における本年度の活動計画は、霞ヶ浦の水質浄化に関連して湖岸中心 4 回、流入河川中心 3 回、流域の自然環境保全地域など 3 回、の植物観察と付近の歴史・文化の学習が予定されています。

その中で参加するグループのパートナーは、活動任務として「補助説明」「写真」「記録」「安全・ゴミ」の作業を各人それぞれが分担して一般参加者に対応し、パートナー活動の PR と意識確立に資することとしました。

定点観察活動は昨年度と同様に「A B 区」「E F 区」「G H 区」の 3 班編成により実施し、今年度から毎月の観察成果を「観察概要」「特徴的な植物生態写真」「写真のコメント」「位置図」の入った A 3 版カラー紙にビジュアルにまとめ、センター内に掲示してパートナー活動の PR に資することとしました。

なおこれまで野外講座で収集したデータは、主にセンターの成果報告や PR のみに利用されていましたが、今後はパートナーもデータを共有し整理して、定点観察のデータも合わせて関連する環境団体や来館者との交流に活用し、霞ヶ浦の環境改善に資すればと考えていますので、関心のあるパートナーのご参加をお願いします。

(植物グループリーダー：有吉)

イベント・記録グループ

平成 22 年度の活動概要

今年度の活動計画は昨年同様にセンター主催行事の補助活動とグループ独自の自主活動になります。補助活動はメインの霞ヶ浦入門講座他に 4 つの行事に積極的に参加することにより、イベント運営の円滑化そして各自のスキルアップに努めます。行事に参加できなかった方は、活動記録がファイリングされますので後日閲覧することができます。

自主活動は 2 項目上げています。昨年度未実施になっている「ウォーキングマップ沖宿コースの作成と利用」、今までに「環境フォトコンテスト」を 2 回実施してきましたが、今年度は趣向を変えて「環境写真撮影会」を開催いたします。特定の場所で環境という事について、各自が写真を通してどのように表現するのか楽しみにしています。参加については全パートナーの方に別途ご案内をいたします。

(イベント・記録グループリーダー：栗原)

こども環境フェスティバル

5月5日のこどもの日に開催されましたこども環境フェスティバルの様子をコメントと写真でご紹介します。



ウルトラクイズ

100人の小中学生が、暑い日差しの中で“霞ヶ浦物知り”チャンピオンの栄冠を目指して熱い戦いを繰りひろげました。整理券も開会后2時間でなくなり大盛況でした。

クイズを通して「霞ヶ浦」に関心を深めてもらって、みんなできれいな湖にしていきたいものです。
(平江)

魚釣り教室

センターの松本さん、パートナーの荻沼さん、水辺基盤協会の吉田代表他、それに私と計8名で担当しました。参加した子供は3~12才でそれぞれ2~3匹のフナ、タナゴ、モツゴ、コイなどを釣り上げ、記念品の魚の下敷きと魚釣りのお守りなどをもらい、喜んでいました。天候に恵まれたせいか午前11時ごろに、当初予定の2倍の100名に達したため、受付を終了したので途中で帰られた子供もいて、実際に魚釣りに参加した子供は88名でした。参加した子供たちとそこご父兄、水辺基盤協会の方々、夏のような暑さの中本当にお疲れ様でした。
(五十嵐愛一郎)



おもしろ科学教室「霞ヶ浦の水を調べよう」

イベント内容は透視度、電気伝導度、COD(科学的酸素要求量)等を調べる実験を順に行い、最後にまとめの解説をするものでした。

この教室には約350人位の方々の参加があり、家族連れや小学校低学年を連れた親子が多かったと思います。館内のクイズラリーでは、答えだけという方は一人もおいでにならず、皆さん楽しんで実験に参加されていた事には少し驚きました。子供さんだけでなく、大人の方々も多く実験に参加され終わった後には自分の子供の頃の話や「昔、30年くらい前には泳いだりシジミやうなぎを獲った」などと多くの感想をお聞きすることができました。子供たちからは、霞ヶ浦の水を見て「どろ色」「にごっている」と言った声が聞かれました。



今回の実験を通して、私自身感じたことは、霞ヶ浦は市民の方々にはなくてはならない庭のようなもので、その庭の水が病気に侵されていて、皆で何とかしなくてはと言う思いが良く伝わってきました。私はよく水郷公園のフランスガモを見るのが好きで出掛けますが、もしこのまま霞ヶ浦の汚染が進み、魚が住めなくなり、鳥が集まってこなくなり、植物が枯れたりと考えたら私自身、霞ヶ浦を見に行こうなどと考えたり、霞ヶ浦に関心を持たなくなるでしょう。そう考えると、一日も早く霞ヶ浦をきれいで元気な水の都にするため、小さなことからひとつずつ水の大切さを考え、暮らしていかなければと改めてそう思ったイベントでした。
(勝山 二三子)



投網教室



ミジンコペーパークラフト



アクリルタワシ教室

<回顧>

一期一会

私がこれまでに会った人の数は、いったい何人ぐらいになるのだろうか？

一生お付き合い出来るような人は何人ぐらいいるのだろうか。

一期一会など有ったのだろうか？それなりに期待をしながら生きてきた、人との出会いを振り返ってみたい。

終戦1年後、泣き虫での涙垂れ小僧が裏庭でカシの実を拾っていた。周辺で人々のにわかにあわただし動きがする。

「あきらあ！！ 父ちゃんがけろって来たぞお！！」
父が戦地から復員して来たのだった。

毛布を結わえたりュックを背負いマント服を着た厳しげな男…父

一生付き合う初めての人…父

八の字髭を蓄えた怖そうな父。

帰ってきたその日

茶の間では、父と母、姉たち二人の4人が団欒をしている。私は、恐る恐る土間の格子戸の影からそと茶の間を垣間見る。

「こら！！ 何そんなところでこそこそしてる！！ こっちさ来お！！」

これが父の第一声でした。

その後「こら！！ 何やってる…」「こら！！ ドコイッタ…」「こら…」「こら…」の連発。やはり第一印象どおり厳格な軍人さん上がりの怖い人だった。

翌々年、小学校入学。教室には大勢の同級生。

日にちが立つにつれオトナシソウな奴、キカンボウな奴、それぞれが毎日元気に遊びはしゃぎ、授業が始ったのも知らず延長線上の気分で騒いでいたら、教壇上のおばちゃん先生が大きな声で「こらあ！！ 静かにしなさい！！」

「え??」

この先生が二人目…50代の女性教師
布袋軸の鞭棒をもち、眉間に縦しわを寄せた厳格な女性教師。

二言目には「連帯責任です！！」と言っては、端から順に鞭棒で生徒全員の頭を「ピシリ！、ピシリ！」…順を待つ気持ちは何とも言えず恐ろしく痛さも倍増したものでした。

その先生も10年前98歳で身罷り、また父も享年70歳、急性肺炎にて逝ってしまった。

お互いに自宅訪問をする間柄となった友達や、犬ころみたにくんずほぐれつ殴りあった友達、同席になった女性友達、慰めあい憎みあいしながら成長の過程で出会った大勢の友達は純真な幼友達として、みな同級生と言う絆で結ばれている。

中学校、高等学校と年を追うごとに会う友達は様変わりをしていく。

同級生で結ぶゴルフの会や同好会のコンペには、それぞれ参加していたが今は一つに絞られた。

新たな家族としての女房や子どもは、人間一生の内の大切な出会いであろう。



生活のための職場の人々は、意識の異なる大事な人としての出会いであり、その中には尊敬できる人との出会いもあり、同じ趣

味を持つ仲間が出来たりもした。

茨城県霞ヶ浦環境科学センターのパートナーとしての活動も今年で3年目になる。それぞれのパートナーは、グループ毎独自の活動となっているが、グループ分けは必然的な各人の趣味の範囲に仕分けられているのかもしれない。そしてこのパートナー活動が今では結構生活の張りとなっている。

人の出会いは摩訶不思議なものです。数十年来ぶりの同級生と会えば、タイムスリップをするし、ちょっと前の出会いであるのにずっと以前からの知人のような友人にもなれる。これこそ人生なのかもしれない。

今を大切に生きることが多くの人との出会いを作るのではないかと思う。

私は、これからも出会いに期待をしつつ楽しい友人たちと、互いに迷惑を掛けながら人生の後輩達に自慢をしたい。「何人の人となつたのかな。多すぎてわからない。」
「はすのうてなに乗るまで、毎日を楽しくすごそうぞ。」

つくば市 山中 章

チョット脳活・頭の体操！

霞ヶ浦に関する問題で、頭のトレーニングをしましょう

Q1 霞ヶ浦はとても広いのに、水深が浅いのはなぜですか？

A 湖の面積と水深は、湖の成り立ちに関係します。

霞ヶ浦は海跡湖と言われ、1万年前に氷河が溶けて海水面の上昇が始まりました。これにより、当時の霞ヶ浦周辺は陸上の湿地のような環境でした。

この時期に、湖底に40メートルの泥がたまりました。そして、氷河の消失に伴い海水面が後退して、海の一部が陸地に残されてできた湖なのです。海に近い平野部にあり、面積が広く水深の浅いのが特徴で、平均水深が現在とほぼ同じ4メートルになったのは、約1000万年前です。

Q2 霞ヶ浦の底には、富士山や浅間山の火山灰が堆積しているそうですが、本当ですか？

A 本当です。1981年（昭和58年）に霞ヶ浦湖底の150地点で行われたボーリング調査で分かりました。湖底から20～60センチメートルのところから1783年（明和3年）に噴火した浅間山（群馬県）の白っぽい火山灰、1707年（宝永4年）に噴火した富士山の黒っぽい火山灰が薄い層で確認されました。また、深さ40メートルの調査では、30種類もの火山灰の層が確認されています。その中で、6300年前に噴火した鬼界島（鹿児島県）のアカホヤ山、西暦600年ころに噴火した榛名山（群馬県）の火山灰も含まれていました。

『子ども百科 霞ヶ浦ものしり事典 第2版』（社団法人霞ヶ浦市民協会2007年3月30日発行）から

（尾形）

春の山桜雪入りウォーキング

4月10日県立青年の家主催で約80人が、雪入ふれあいの里公園ネイチャーセンターを9時20分出発して楽しいウォーキングが始まった。七曲分岐点より山桜が遠く見え、雪入山（浅間山）344m丁度満開の面に合った。咲き誇っていた山桜をみながらしばらく歩いていると三ツ石の交差点に差し掛かり、金命水、銀命水にたどり着いた。そこを北へジグザグと歩くこと1km。10時30分、林道を廻り秋葉峠で展望しながら水の補給（小休止10分）コップ一杯の麦茶を飲みほぐした。雪入山へ向けて歩き、登りつめて1.5kmほど頂上真下50m位を通り抜けた。林間道1kmほど歩くとまもなく三ツ石公園だ。

笹林の篠竹の道を歩くと森林公園に到着した。10分ほど休憩。水の補給を受ける。展望し石岡方面を眺めると山桜は至るところで満開であった。11時15分、ウワミズ桜、ソメイヨシノ桜を観ながら桜並木をながめ最高の展望でした。

12時15分、ネイチャーセンターふれあいの里公園に到着し、青年の家でカレーとごはんの配膳を受け、アンケートへ記入した。足も快調でウォーキングの楽しみをかみしめた一日でした。

（中村）



「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

「香澄」はパートナーの皆様と一緒に作る情報誌です。

常時原稿を募集しておりますので是非ご応募ください。

特にテーマは設けません。パートナー自身のプロフィールやセンターでの活動体験記、身の回りの話題、また俳句・川柳・写真など何でも結構です。

原稿は、センター2階パートナー室の「香澄メールボックス」にお入れください。

「編集後記」

45年ぶりの4月の大雪とか25年ぶりの暑さとか、このところ地球の循環に異常をきたしたような気象現象が頻発しています。世界各地で発生する大雨もその類でしょう。となると心配なのは地震です。関東大震災以来音なしの構えている関東ローム層の地下も気がかりです。県内には活断層は無い（発見されていない）とのことですが、茨城県沖と県南部は地震の巣といってもいいのではないでしょうか。そろそろ大地震が起こる。そうみるべきでしょう。減災への備えと覚悟（地震は起こるものと自覚すること）が最良の地震対策だそうです。皆さんもそのおつもりで。

（H）